

単元名:地域の健康ガイドを作ろう						
科目名	中国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー	
学年／年次	-	クラス人数	-	使用教科書名(対応す)	-	
話題分野	からだと健康	言語レベル	2	必要時間数	5～6時間	
Ⅰ 単元目標						
地域の医療事情を調べ、日中の医療事情の比較を踏まえながら、地域に住んでいる中国人住民のための「健康ガイド」を中国語で作成し、活用してもらうことができる。						
	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる						
できる						
つながる						
言語領域		文化領域		グローバル社会領域		
◆病院の医師とやりとりすることができる。 ◆ネットや辞書・書籍で調べた表現・語彙から必要な情報を読み取ることができる。 ◆体調が悪い時に必要な中国語の表現、語彙を載せたハンドブックを作ることができる。 ◆常用表現やボディランゲージなどを駆使し、積極的にコミュニケーションをとることができる。(コミュニケーション・ストラテジー)		◆体調不良時の家庭での看護について日中比較し、異同とその背景について考えることができる。 ◆風邪をひいた時の対処法について日中比較し、異同とその背景について考えることができる。 ◆中国の病院の受診システムの相違を理解することができる。 ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。		◆グループで話し合い、協力してハンドブックを作成することができる。(協働) ◆PCで日中両言語併記のハンドブックを作成することができる。(情報活用) ◆地域の医療の重要性を認識することができる。(知識理解) ★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。		
コミュニケーション能力指標	【からだと健康】 2-a. 病院の案内図を見て、自分が受診したい科の場所を、見つけられる。 2-d. 病状(風邪をひいた、おなかや頭が痛い、熱がある、咳が出るなど)について、口頭で説明したり、尋ねたりできる。 2-e. からだの調子について、書いて伝えることができる。 2-g. 口頭または書かれたお見舞いの決まり文句を理解できたり、自分の回復状況を口頭でまたは書いて伝えることができる。 2-h. 医師の指示(仰向けに寝てください、横を向ってくださいなど)を、聞いて理解できる。 2-i. 医師に診断書を書いてほしいと、口頭で依頼できる。 ★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。 数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している。					
Ⅱ 評価						
学習を助けるための評価 (形成的評価)				目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)		
◆必要な語彙や表現の筆記／聞き取り小テストをする。(表記の正しさ、聞き取りの正確さ) ◆体調不良になった場合のロール・プレイを評価する。(発音の正確さ、適切な表現、態度等) ◆自分の体調不良を適切に表現できたかを自己評価する。(言いたいことが伝えられたか、相手に理解できる表現、発音であったか)				◆健康ガイドを作成する。(情報の量と適切さ、内容構成の分かりやすさ、表記の正確さ等)		

Ⅲ 学習活動		
プレコミュニケーション活動 (語彙・表現習得活動)	コミュニケーション活動 (学習シナリオ)	
◆病院内の案内図を用意して黒板に貼る。二人一組で一方の生徒が病状説明をし、もう一方の生徒は受診すべき科を考えて図の該当部分を指さす。【2-a】 ◆医師役の指示(口を開けてください／仰向けに寝てください等)にあわせて、実際にその行動をする。【2-h】 ◆自分が中国に行って具合悪くなって現地の病院を受診するという設定で、病院の医師とやり取りするロールプレイをする。【2-d,e,g,h,i】 ★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標	<場面状況> H高校の中国語クラスでは、地域に住んでいる中国人の居住者のための、地域の健康ガイドを中国語で作ることにした。 <活動の流れ> 地域にある診療所、医院、病院を調べ、病院の名前、連絡先電話番号、設置している診療科、担当医の名前など、分かりやすく一覧にまとめる。その際特に、小児科や救急業務、夜間窓口、多言語対応の有無などを確認し一覧に加える。伝染症の相談窓口(保健所など)、救急車の呼び方の情報も加えておく。 以上の情報を健康ガイドに載せる際、中国語で載せるか、日本語にフリガナをつけるか、日中対照にするか、利用する中国人の立場に立って考え、話し合って決める。中国の病院や医療システムのことについて調べ、利用方法など日本と異なる点があれば、特別に説明を加えておく。 医師に伝えておくべき事項(持病、食物や薬物アレルギー、既往症など)、病状、診療中に医師から出される指示、体の部位、各診療科の名称、回復状況を伝える表現など、受診する際に最低限必要な語彙や表現を日中対照で一覧にまとめる。 ガイドブックができれば、役所やボランティア団体または学校の協力を得て勉強会を開き、地域の中国人に来てもらって、健康ガイドの説明を行う。必要に応じて日本語の表現・語彙を教え、同時に中国語の言い方を教わる。説明会で得たコメントに基づき、必要な修正を行ない、健康ガイドを完成させ、役所や病院等において実際に役立ててもらおう。 ヒント ◆医療通訳ボランティアを派遣する機関や団体に関する情報も調べて提供する。 ◆地域のお医者さんや看護師さんにも健康ガイドで中国の言い方を覚えていただくための工夫を行う。	
<使用教材・教具> PC、インターネット、辞書		
表現と表現のポイント	語彙	文化・グローバル社会事象と事象のポイント
<表現> 头疼/有点儿发烧/拉肚子/咳嗽/嗓子疼/流鼻涕/胃不舒服/牙疼/好像感冒了/发冷/出汗/浑身无力/头晕/没有食欲/恶心/便秘/扭脚/没有药/我想去医院看病。/吃点儿药就好了。/你不用担心。/要不要喝水?/可能着凉了。/多穿点儿衣服。/好好儿休息。/比昨天好一点儿了。/请把头稍微抬起来一点儿。/仰着睡吧。/请给我开诊断书。/我加入旅行保险了。 <表現のポイント> “有点儿”、“好像”、“没有”、“比”を用いた比較の文、“把”構文、動詞＋“着”＋動詞、“～吧”、介詞“给”、主述述語文、“有点儿”、有～吗?、連動文、“一下”、助動詞“想”、“～就好了。”、“不用”、反復疑問文、副詞“可能”、文末助詞“了”、“多”＋動詞＋“(一)点儿”、“好好儿”＋動詞	老病(特应性皮炎、气喘、腹瀉、心脏有毛病、貧血)、過敏症、既往病歴、使用できない薬、食べられないもの、体の部分名称、病院内の各科の名称(内科、外科、婦科、整形外科、病房、药房、取药处) 具合の悪いことを訴える表現(疼、舒服、痒、麻、没有精神)	<事象> ◆病院に行く前に各家庭でおこなう対処法 ◆中国の病院の受診の仕方 ◆地域医療 <事象のポイント> ◆具合が悪い時に一般に家庭でどのような対処、看護をするか。 ◆風邪をひいたとき何を食ったり、飲んだりするか(食ったり、飲んだりしてはいけないものは何か)。 ◆中国の病院の受診システム、保険の使い方の異同について考察する。 ◆かかりつけ医、無医村、足りない診療科、そうした地域医療が健康管理や病氣治療、住民の生活にどのような影響を与えているかを考える。
教室外(人・モノ・情報)との連繋		他教科の内容との連繋
地域の中国人、病院の医師、役所、ボランティア団体		保健体育